

第4章 今後の大学キャンパスの設置と運用

4-1 大学設置基準の再検討

4-2 21世紀型大学キャンパスの施設水準

4-2-1 道のルール

4-2-1-1 幹線道路

4-2-1-2 基線道路

4-2-1-3 細線道路

4-2-1-4 駐車場、駐輪場

4-2-2 緑・水のルール

4-2-3 建物のルール

4-2-3-1 建物群・隣棟間隔

4-2-3-2 建物アプローチ

4-2-4 配置のルール

4-2-4-1 領域・スペース

4-2-4-2 敷地境界

4-2-5 広さのルール（屋内）

4-2-5-1 講義室（小/中/大）

4-2-5-2 演習室

4-2-5-3 実験・実習室

4-2-5-4 研究執務室

4-2-5-5 事務室

4-2-5-6 図書館・室

4-2-5-7 屋内運動場・室

4-2-5-8 課外活動室

4-2-5-9 食堂・学生会館など

4-3 大学キャンパス設置計画、設置後運用における要件

第4章 今後の大学キャンパスの設置と運用

4-1 大学設置基準の再検討

大学キャンパスの敷地、施設整備の現状から、大学キャンパスの校地・校舎整備に必要な事として、以下の様な守るべき性質が捉えられた。

学生が教育を受けるために適切な施設及び設備を設けること、

教員が教育、及び研究を行うために適切な施設、及び設備を設けること、

が基本にあり、また、その活動を支え円滑・かつ安全に運営するために、事務、運営管理を行うものがその業務を行うために適切な施設、及び設備を設けることが、大学キャンパス毎の校地・校舎整備に必要である。そのため、現行の最低設置基準を大学全体での設定のものから、キャンパス単位での整備を前提とした場合、キャンパスによって柔軟に対応し、校地・校舎面積の学生単位の面積基準の撤廃も含めて検討しなければならない。但し、そうした場合キャンパスの自立性がなく、大学キャンパスとしての設置目的、質・内容、規模は非常に限定される事が考えられるため、運営状況の継続的な確認が必要となる。

(参照：キャンパス整備の最小単位性について 3-2-2)

求められる標準的なキャンパス整備には、厚生補導の組織がその業務を行うために適切な施設及び設備を設けることが必要となり、これには、食堂や購買部、学生会館や図書館を含め、屋外・屋内運動施設等とそのための管理施設が挙げられる。キャンパス内で学生や教員・職員の生活行動が可能でありキャンパスの自立性が確保できる整備となる。

目指すべき目標水準としては、標準的な整備と併せて、大学の特性に応じた研究施設、講堂等を設けキャンパス環境の価値を高める段階が挙げられる。そうした場合、設けられた施設に応じて、キャンパス校地・校舎の屋内・屋外空間の余裕も一層必要となる。

(参照：校地・校舎整備の3区分について 3-4-2)

こうした施設・空間の性質を校地・校舎整備の水準として設定した場合、諸用途に対する空間使用、人員運用を併せて検討する必要がある。そのための内容は、教育空間に関しては講義室、実験室、学生室、学生研究室、学科・専攻図書室が挙げられ、研究空間に関しては専用研究室、研究スペース、学生担当規模、大学院生率、教員専任率が挙げられ、活動支援環境に関しては学科・専攻事務室、学科・専攻会議室、職員学生率が挙げられた。

上記項目によるキャンパス整備の実行のためには、空間使用・施設運営をコントロールする機構・組織・人材を大学組織の一部に組み込み、確保することが重要な課題となる。これは、上記の何れの指標もキャンパス役割類型によってその特性が現れるため、これらは共通的な運用ではなく、キャンパスの実況に合わせた教育的側面、研究的側面、支援的側面に対する単位面積量、人員整備の配分の判断を行い充足させる必要があるからである。

(参照：指標の概要について 3-3-1、類型別の指標特性について 3-3-2)

屋外余裕空間は、キャンパスにおける学生・教員・職員の居住時間を増加させ、より高度で広範な活動が可能になり、結果として教育、研究活動の向上のための必要空間である事実が確認された。また、こうした屋外余裕空間は施設改修等の経年的なキャンパス環境の質的維持において有効な土地となり、その整備の位置付けを明確にしておく必要がある。

4-2 21世紀型大学キャンパスの施設水準

ここまで捉えてきた、大学キャンパス校地校舎の数値的特性及び、現地調査から抽出された空間的特性を併せて捉えることで、今後の大学キャンパスの施設水準を求める。

設定項目は、これまでの集計・調査から類型によって特性が得られた以下の通りとした。

4-2-1 道のルール -対応数値：建蔽率、画像個別数値：道路率、駐車場率

4-2-1-1 幹線道路・・・(1)

4-2-1-2 基線道路・・・(2)

4-2-1-3 細線道路・・・(3)

4-2-1-4 駐車場、駐輪場・・・(4)

4-2-2 緑・水のルール・・・(5) -対応数値：敷地面積

4-2-3 建物のルール -対応数値：敷地面積、画像個別数値：建蔽率

4-2-3-1 建物群・隣棟間隔・・・(6)

4-2-3-2 建物アプローチ・・・(7)

4-2-4 配置のルール

4-2-4-1 領域・スペース・・・(8) -対応数値：空地面積

4-2-4-2 敷地境界・・・(9) -対応数値：敷地面積

4-2-5 広さのルール(屋内)

4-2-5-1 講義室(小/中/大)・・・(10、11、12) -対応数値：講義室面積/人

4-2-5-2 演習室・・・(13) -対応数値：演習室面積/人

4-2-5-3 実験・実習室・・・(14) -対応数値：実験・実習室面積/人

4-2-5-4 研究執務室・・・(15) -対応数値：研究室面積/人

4-2-5-5 事務室・・・(16) -対応数値：事務室面積/人

4-2-5-6 図書館・室・・・(17) -対応数値：図書館用途面積/人

4-2-5-7 屋内運動場・室・・・(18) -対応数値：屋内運動用途面積/人

4-2-5-8 課外活動室・・・(19) -対応数値：課外活動用途面積/人

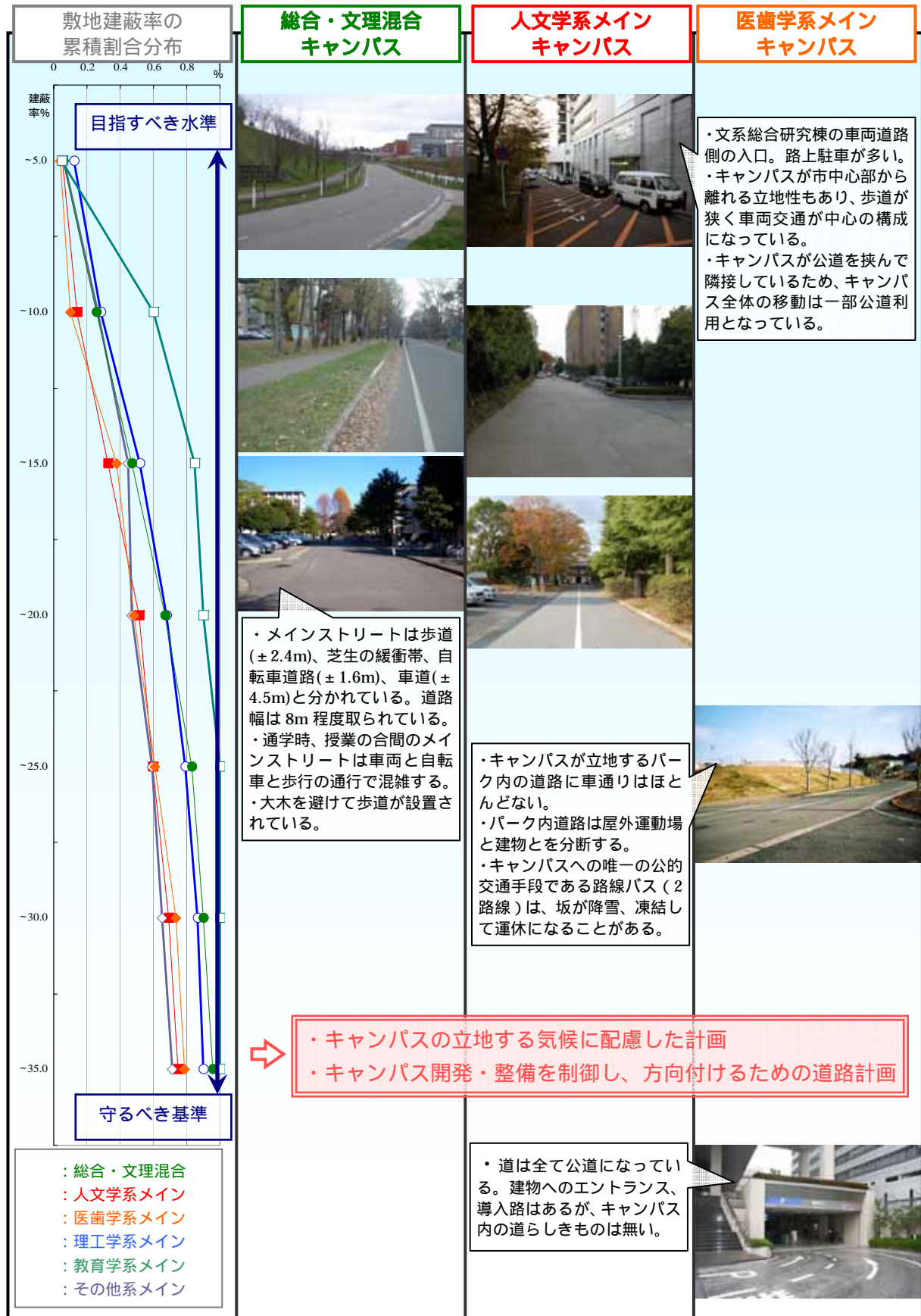
4-2-6-9 食堂・学生会館など・・・(20) -対応数値：厚生施設用途面積/人

また、安全・安心・快適のルール、通時的歴史性のルール、風土性のルールは上記各項目に対する評価として現れる。

4-2 21世紀型大学キャンパスの施設水準

4-2-1 道のルール

4-2-1-1 幹線道路



理工学系メイン
キャンパス



・中庭を形成する校舎群の外周を通る車両用道路
・車両道路には歩行者道路は併設されていない。道幅は約7m。
・校舎に囲まれた中庭が主要な歩行者動線である。



・メインストリートの二車線の車道。西側より東側を見る。車道を狭むように植樹帯があり、さらにその外側に歩道がある。
・各棟と歩道の間にも芝生の緩衝帯がある。



・幹線道路は駅方面の入り口からキャンパスの中心に向かっていている。
・建物が取り壊されたところで明るい道だが建物が建つと暗く人通りも少ないイメージの道となる

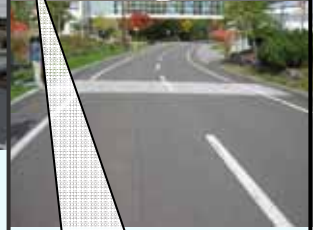


教育学系メイン
キャンパス



・入構した車両が必ず通る道路。幅も狭く、また学生の歩行も多く見られ、道路計画としては劣悪である。車道：車両1台分、歩道：片側1M強
・歩道と車道が区別されているが、自転車道はない。また、歩道の幅が狭く、授業時間など学生の一斉移動のときは混雑する。
・街路樹は歩行者専用デッキとなっている。唯一の歩車分離の計画である。

その他系メイン
キャンパス



・直線が1kmに及ぶため、スピードの出し過ぎが危険。
・大学敷地の塀がないため、一般車も進入してくる。
・道路脇は廃材置き場となっている。



・歩車分離による敷地内移動の誘導計画、移動手段変更場所の配置・計画
・環境負荷の低減（排気制御、廃棄制御、透水舗装化、緑化など）の積極的導入

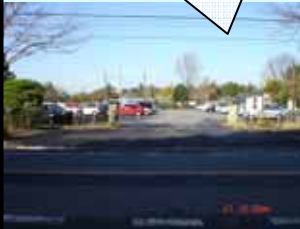
4-2-1 道のルール

4-2-1-2 基線道路



理工学系メイン キャンパス

・とりわけ道路の舗装等の整備はされていない。



・路肩駐車用のスペースが確保されている。歩車分離の場合、身体障害者への配慮が特に必要となる。



・ボラード内は通常、車両進入禁止区域である。各種業者の搬入車などはボラードを外し、車両進入禁止区域へ入ることが可能。



・建物とテニスコートとの間の道は駐輪場ではないが、バイクが置かれてあることが多い。
・道沿いにベンチがあり休み時間に喫煙場所として利用する学生が多い。



・幹線と比べて、歩道と車道の区分が希薄となっている。また全体的に舗装状態も凸凹であったりし、整備差が激しい。
・歩道の区別は無く、路上駐車が多く見られた。



教育学系メイン キャンパス



・正面の歩行者通路から中庭へ通り抜けるためのピロティ。降雨後のため、手前と奥の段差部分に水たまりが出来ており、道幅を制限している。



・北門入って直進する軸線は木々が気持ちよいが、ここは付属小学校の通学路として指定されているため小学生が多く見受けられる。歩道がついているが車道を歩行してしまっている。
・自転車と歩行者両方の利用があるが十分な通路幅があるので危険性は少ない。

その他系メイン キャンパス



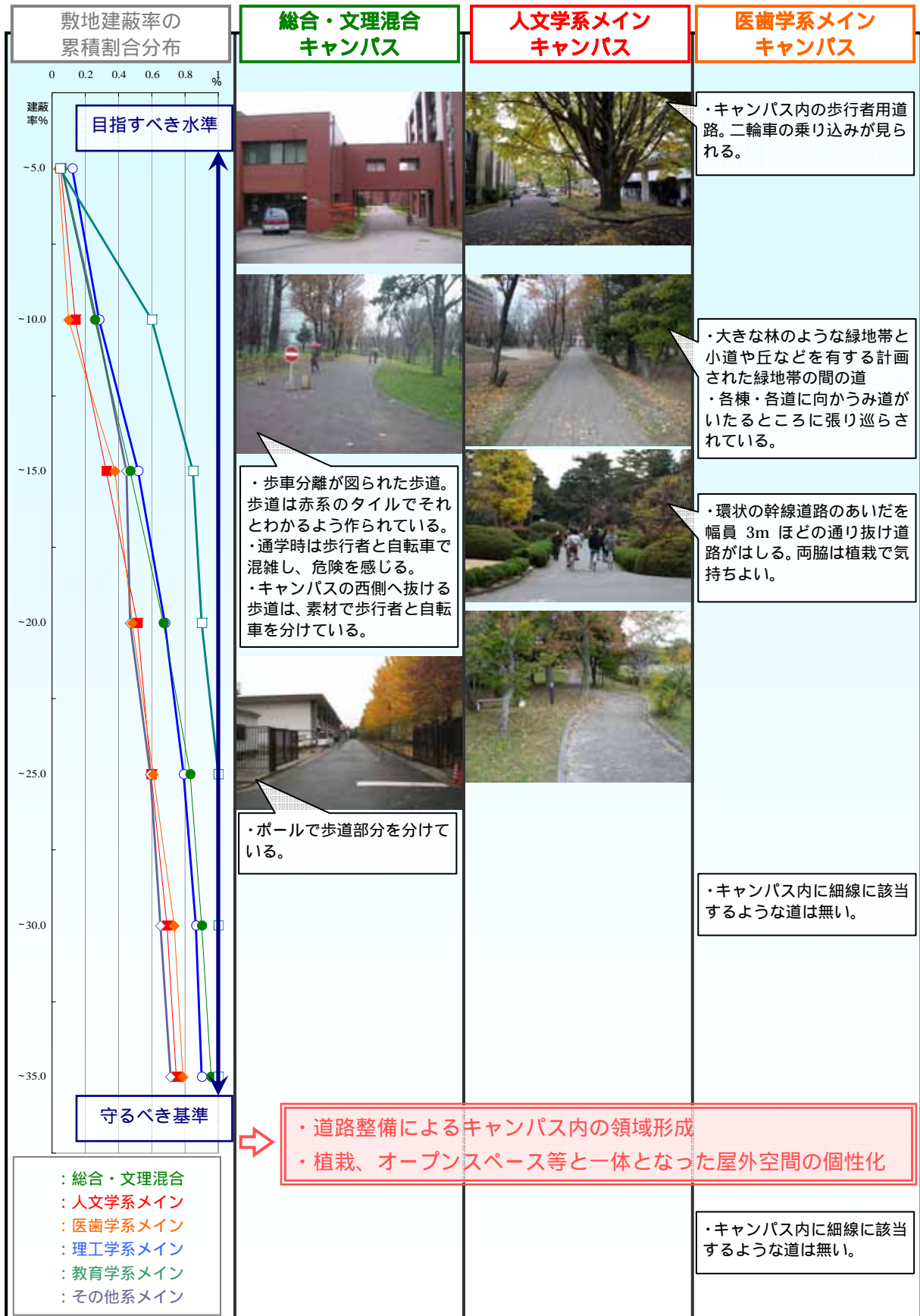
・建物と建物間の道路は、車両や機材、廃材が置かれている。
・館へ南側付近の道路では、車、自転車、歩行者が混在する。



・歩道整備、安全性確保の徹底
・附帯設備の設定・計画

4-2-1 道のルール

4-2-1-3 細線道路



理工学系メイン
キャンパス

・キャンパスモール内の小径。植栽や岩で構成されている。



・舗装状態が悪化しており、移動空間の維持管理が欠落しやすい。
・建物入口付近では路上駐車スペースとなりやすい。適切な誘導計画が必要となる。



・歩道者用や学生会館(生協)とつながっている道路となっている。時々自転車が見られている。



・建物間の通路。車両の姿は殆ど無く、歩行用になっている。領域形成での建物周囲の歩行用舗装の重要性。

教育学系メイン
キャンパス



その他系メイン
キャンパス

・道路幅は 3.5~4M 程度となっている。大型車が多くなる事が考えられ、幅だけでなく回転半径、停車、高さの確保が必要である。



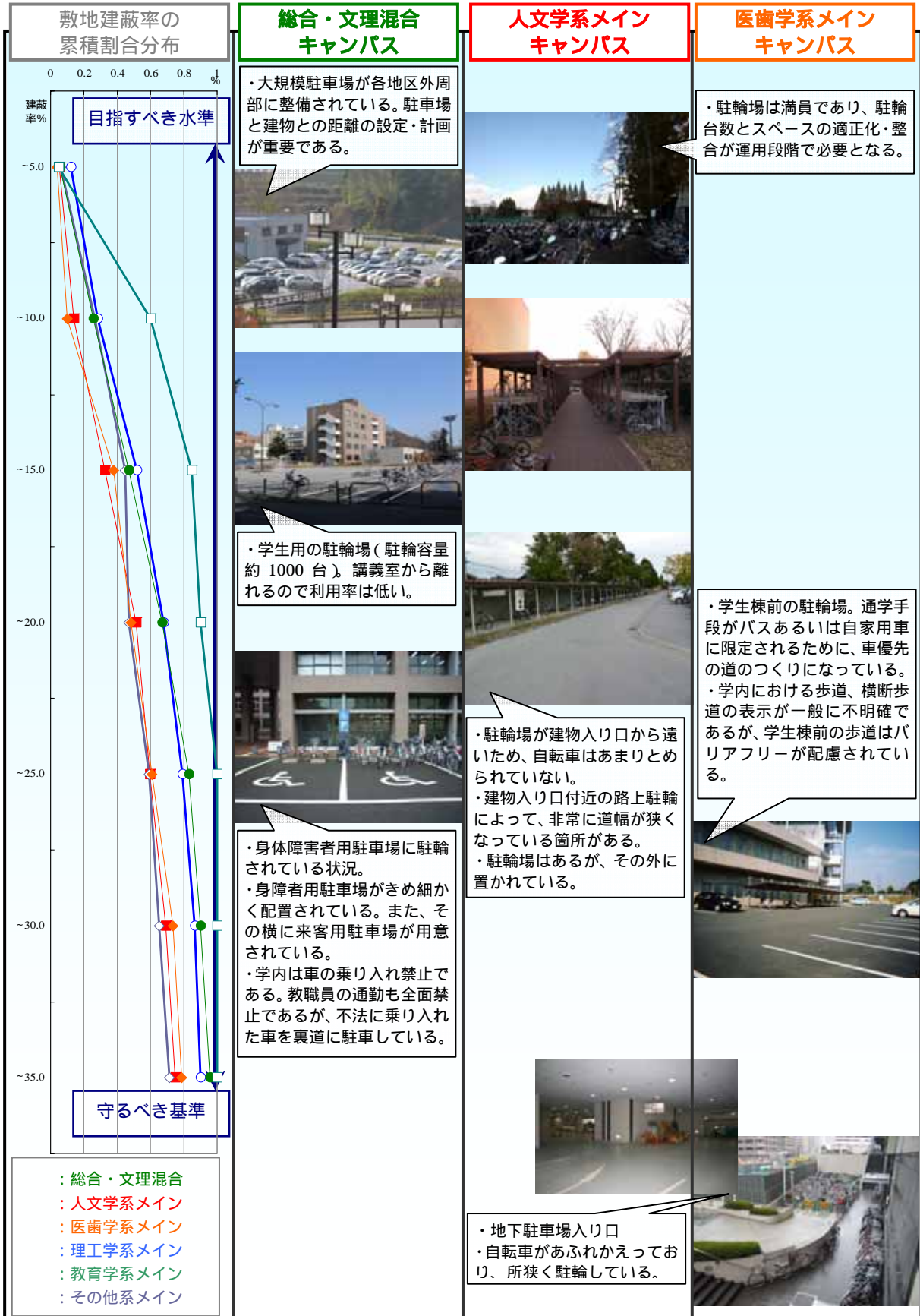
・本部棟玄関から食堂(クローバーホール)へと続く歩行者通路。スカイウェイが底のかわりとなっている。



・路上駐車・駐輪への対策
・附帯設備による屋外通路空間の性格の設定・計画

4-2-1 道のルール

4-2-1-4 駐車場、駐輪場



理工学系メイン キャンパス



・緑地として整備する予定地を暫定的に駐車場として利用している。

・東西基線道路の幅員半分を使って設置した「仮」自転車駐輪場。屋根はない。



・駐車場の全体像。幹線道路沿いに設けられている。ここで車両と歩行の区分がなされている。
・建物間には駐輪場が整備されておりにも係わらず、自転車による移動では建物入口まで乗り込まれる。



・入口の駐輪場が整備されている一方で、路上駐輪されているケースが多い。
・建物の中庭には駐車整備されているが、駐輪がバラバラとなっている。歩行者に迷惑をかけているとみられる。



・敷地入り口に駐輪場が整備されているが、自転車の場合、建物入り口前まで、乗り入れ路上駐輪されている。
・エントランスに十分な広さをとっている分、駐輪場となってしまう。キャンパス設置後の施設運営の中で検討すべき項目である。

教育学系メイン キャンパス

・自転車置き場となっているピロティだが、多数の自転車が倒れており見苦しい。
・この地域は常に風が強いため、外部空間には風への対策が必要である。



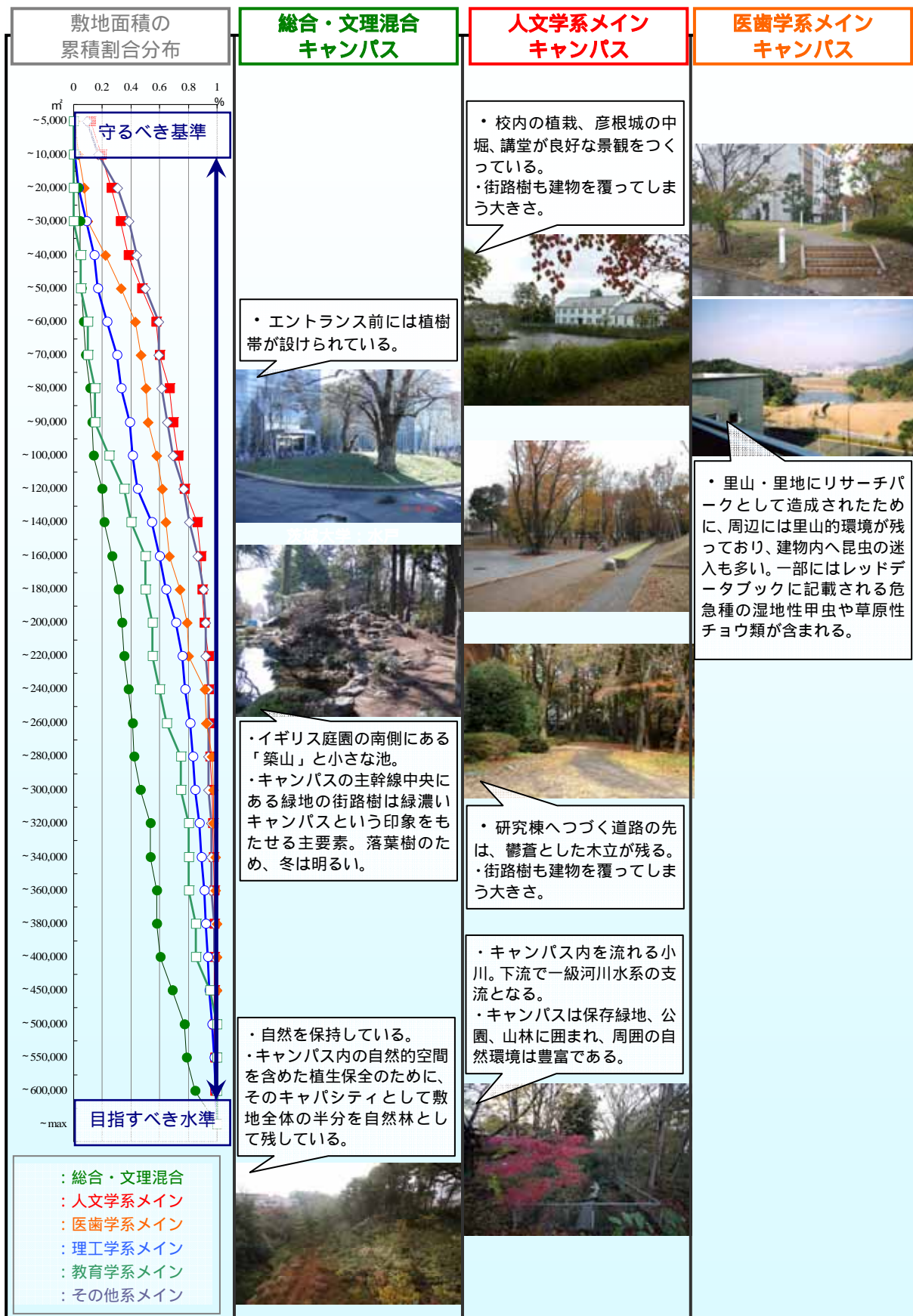
・講義棟の入り口周辺には自転車置き場が通路沿いに設定されている。
・図書館前のアプローチにおいても自転車置き場が設定されている。

その他系メイン キャンパス

・職員、学生・学年、外来者などの区分で駐車場を区分して駐車量をコントロールしている。駐車台数を制御し道路、駐車環境を保つ運用が必要である。



・路上駐車・駐輪への対策
・建物施設と駐車場・駐輪場との距離設定・計画

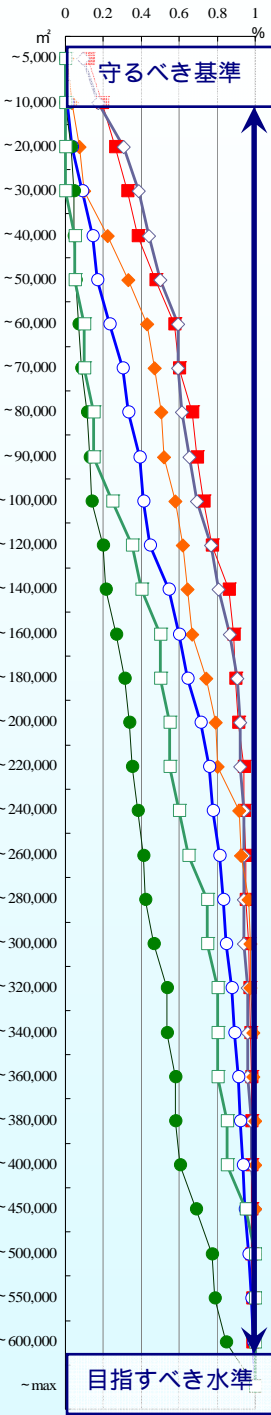


敷地面積の
累積割合分布

**総合・文理混合
キャンパス**

**人文学系メイン
キャンパス**

**医歯学系メイン
キャンパス**



- : 総合・文理混合
- : 人文学系メイン
- : 医歯学系メイン
- : 理工学系メイン
- : 教育学系メイン
- : その他系メイン

・校内の植栽、彦根城の中堀、講堂が良好な景観をつくっている。
・街路樹も建物を覆ってしまう大きさ。

・エントランス前には植樹帯が設けられている。

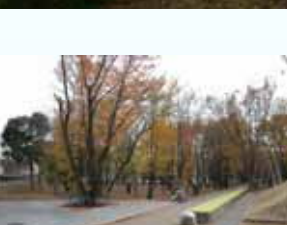


・イギリス庭園の南側にある「築山」と小さな池。
・キャンパスの主幹線中央にある緑地の街路樹は緑濃いキャンパスという印象をもたらせる主要素。落葉樹のため、冬は明るい。

・自然を保持している。
・キャンパス内の自然的空間を含めた植生保全のために、そのキャパシティとして敷地全体の半分を自然林として残している。

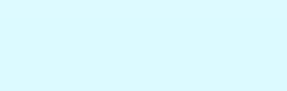
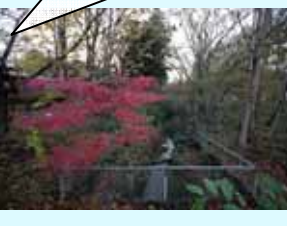


・校内の植栽、彦根城の中堀、講堂が良好な景観をつくっている。
・街路樹も建物を覆ってしまう大きさ。

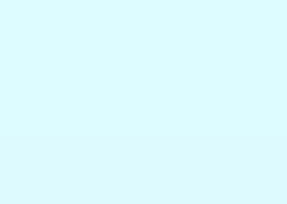
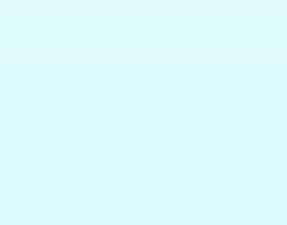
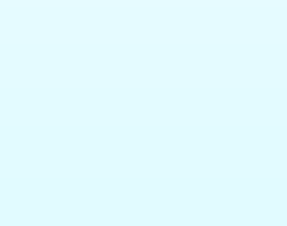


・研究棟へつづく道路の先は、鬱蒼とした木立が残る。
・街路樹も建物を覆ってしまう大きさ。

・キャンパス内を流れる小川。下流で一級河川水系の支流となる。
・キャンパスは保存緑地、公園、山林に囲まれ、周囲の自然環境は豊富である。



・里山・里地にリサーチパークとして造成されたために、周辺には里山的環境が残っており、建物内へ昆虫の迷入も多い。一部にはレッドデータブックに記載される危急種の湿地性甲虫や草原性チョウ類が含まれる。



理工学系メイン
キャンパス

教育学系メイン
キャンパス

その他系メイン
キャンパス

・建物の周囲を緑化している。花壇の周囲部分を座りスペースとして利用する学生もいる。



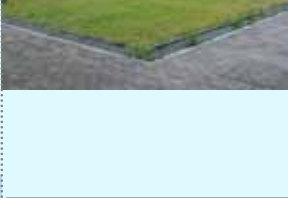
・広い芝生広場が確保されており、自然に囲まれたオープンスペースが多い。
・広い芝生広場と自然林があり、課外活動をする人に対し気持ち良く練習ができる。



・キャンパスに隣接して公園・山林があり、周囲の自然環境は豊富である。
・キャンパス周辺に植生が豊富な一方、敷地内は植栽が多く、区別されている。



・敷地内の68箇所の古墳のうち35の古墳を緑地として保全している。
・キャンパス入口の両側には緩やかな芝生の岡が広がる。



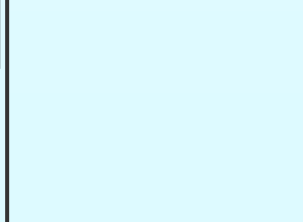
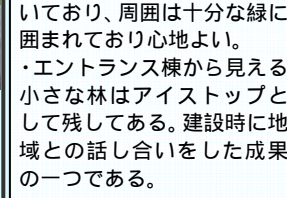
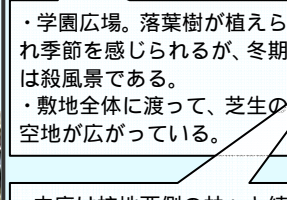
⇒
・地域と一体となった環境・植生保全
・交通、廃棄、低エネルギーとの関係による次世代型キャンパス計画の促進
・キャンパス内の緑地・水環境の性格の設定・計画
・建物、オープンスペースとの関係による個性化

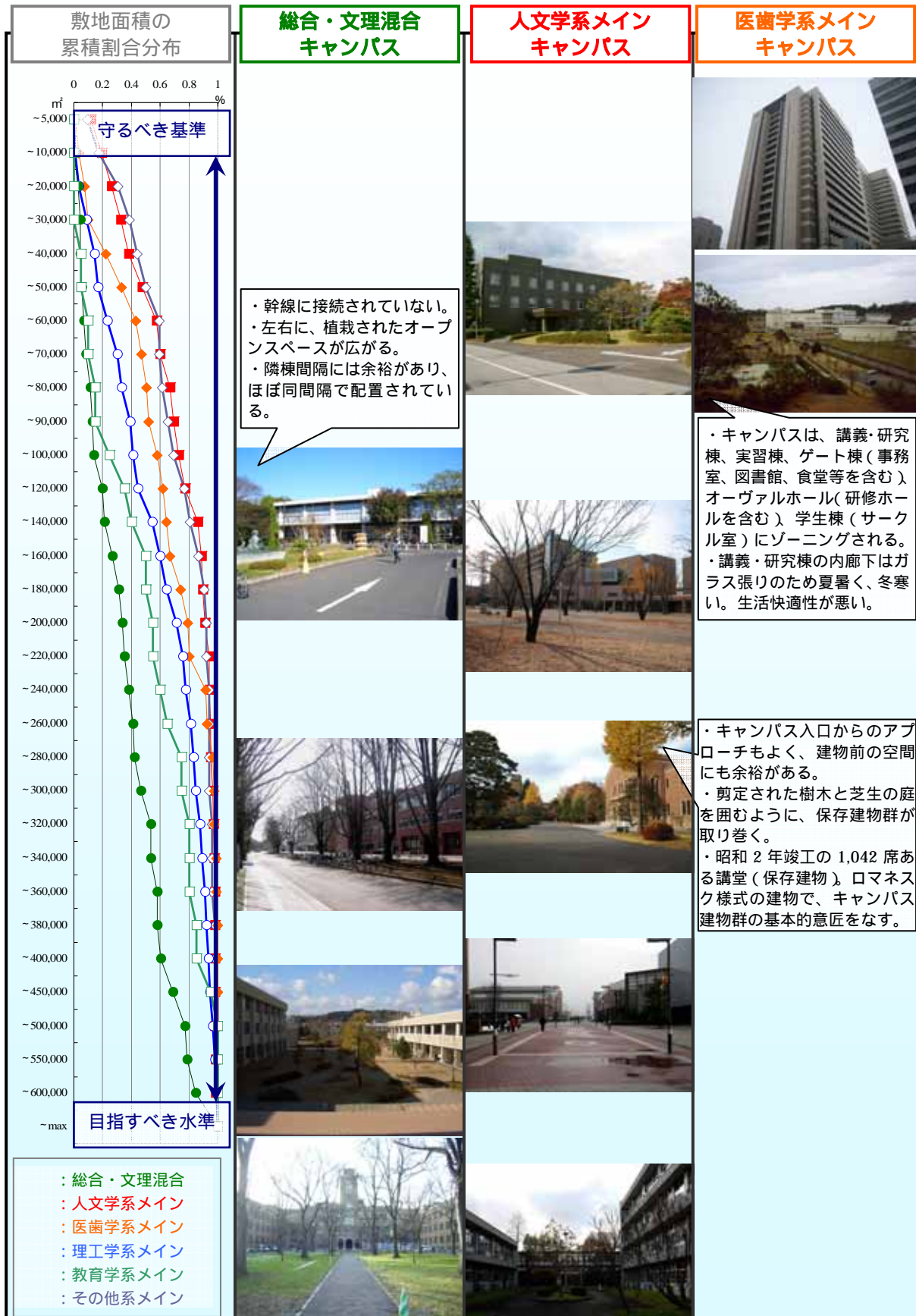
・山からの水脈がキャンパスを抜けている。蜚の生息する小川もある。



・学園広場。落葉樹が植えられ季節を感じられるが、冬期は殺風景である。
・敷地全体に渡って、芝生の空地が広がっている。

・中庭は校地西側の林へと続いており、周囲は十分な緑に囲まれており心地よい。
・エントランス棟から見える小さな林はアイストップとして残してある。建設時に地域との話し合いをした成果の一つである。





理工学系メイン
キャンパス



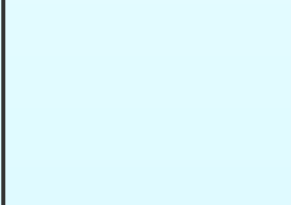
- ・経年的に計画された隣棟間隔の確保
- ・風土、気候に適した建物配置計画



- ・研究棟同士は緑地帯で隣棟間隔を広く取られている。
- ・広い隣棟間隔、オープンスペースは建物の維持管理・改築時に空地として必要な空間といえる。
- ・一方で、全体計画がなくオープンスペースが消耗されている。

教育学系メイン
キャンパス

- ・対称性を意識して設計されているが、校地全体の配置計画、キャンパス内の軸線とは無関係。
- ・大学がこの地に立地する前は基地として利用されていたが、その名残の施設がいくつか存在する。

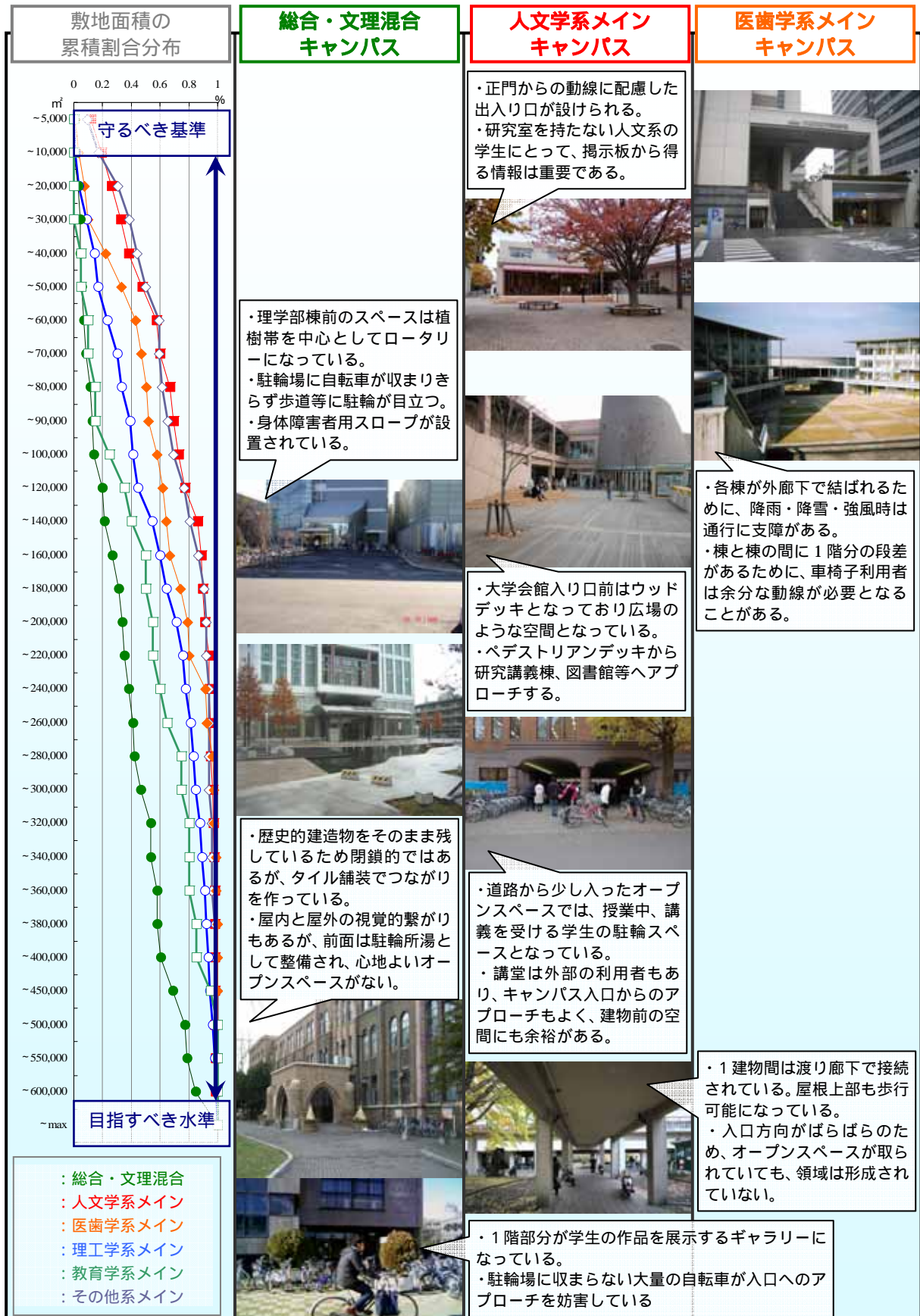


その他系メイン
キャンパス

- ・階段で登らなくてはならない箇所があり、バリアフリーとなっていない。冬季の凍結は危険である。
- ・斜面は緑地となっている。
- ・研究棟と実習棟の間は、通路と駐車場になっており、あふれた車が通路に駐車している。



- ・建物の間には中庭が設けられており、隣棟間隔が適度に保たれている。
- ・建物間の移動用通路はキャンパスの立地する気候に不適切であり、横風・風雨からの防護には効果がない。
- ・各種屋内運動施設は個々の建物ヴォリュームが大きいいため、その周囲の空地の取り方が重要となる。



**総合・文理混合
キャンパス**

・理学部棟前のスペースは植樹帯を中心としてロータリーになっている。
 ・駐輪場に自転車が収まりきらず歩道等に駐輪が目立つ。
 ・身体障害者用スロープが設置されている。



・歴史的建造物をそのまま残しているため閉鎖的ではあるが、タイル舗装でつながりを作っている。
 ・屋内と屋外の視覚的繋がりもあるが、前面は駐輪所湯として整備され、心地よいオープンスペースがない。



**人文学系メイン
キャンパス**

・正門からの動線に配慮した出入りが設けられる。
 ・研究室を持たない人文系の学生にとって、掲示板から得る情報は重要である。



・大学会館入り口前はウッドデッキとなり広場のような空間となっている。
 ・ペデストリアンデッキから研究講義棟、図書館等へアプローチする。



・道路から少し入ったオープンスペースでは、授業中、講義を受ける学生の駐輪スペースとなっている。
 ・講堂は外部の利用者もあり、キャンパス入口からのアプローチもよく、建物前の空間にも余裕がある。

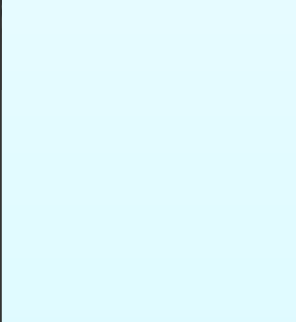


・1階部分が学生の作品を展示するギャラリーになっている。
 ・駐輪場に収まらない大量の自転車が入口へのアプローチを妨害している

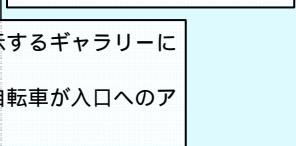
**医歯学系メイン
キャンパス**



・各棟が外廊下で結ばれるために、降雨・降雪・強風時は通行に支障がある。
 ・棟と棟の間に1階分の段差があるために、車椅子利用者は余分の動線が必要となることもある。



・1建物間は渡り廊下で接続されている。屋根上部も歩行可能になっている。
 ・入口方向がばらばらのため、オープンスペースが取られていても、領域は形成されていない。



理工学系メイン
キャンパス

・大学会館前は喫煙場と休憩場を設置して、学生たちの休憩、会話が出来る良い場所である。
・大学会館前は広場状の道路があり、樹木もあり、スケール感が良い。



・低層部は街路空間としてオープンスペースと一体的にしつらえ、ヒューマンスケールで変化を持っている。
・アライバルポイントに人を迎え入れる装置としてのゲート



・ピロティ、歩行者通路になっているオープンスペースによって各棟の入口が繋がられている。
・オープンスペース側に開かれ、屋外と屋内の繋がりが意識されている。

・広場に面して設けられた移動空間。講義棟をつなぐ渡り廊下であり、授業前後の学生活動を担保する空間となる。
・学生が一斉出入りする空間がなく、学生の移動空間の環境の保持が必要である。



教育学系メイン
キャンパス

・図書館前のアプローチ。スロープはない。
・東西にかなり傾斜のある敷地に立てられているために、建物はこの方向に棟毎に半階ずれるため、接続部分は階段やスロープになっている。
・福利厚生施設の北側はタイル張り舗装された空地があり、テラスのような空間として利用されており、晴れの昼食時は季節を通じて学生でにぎわう。



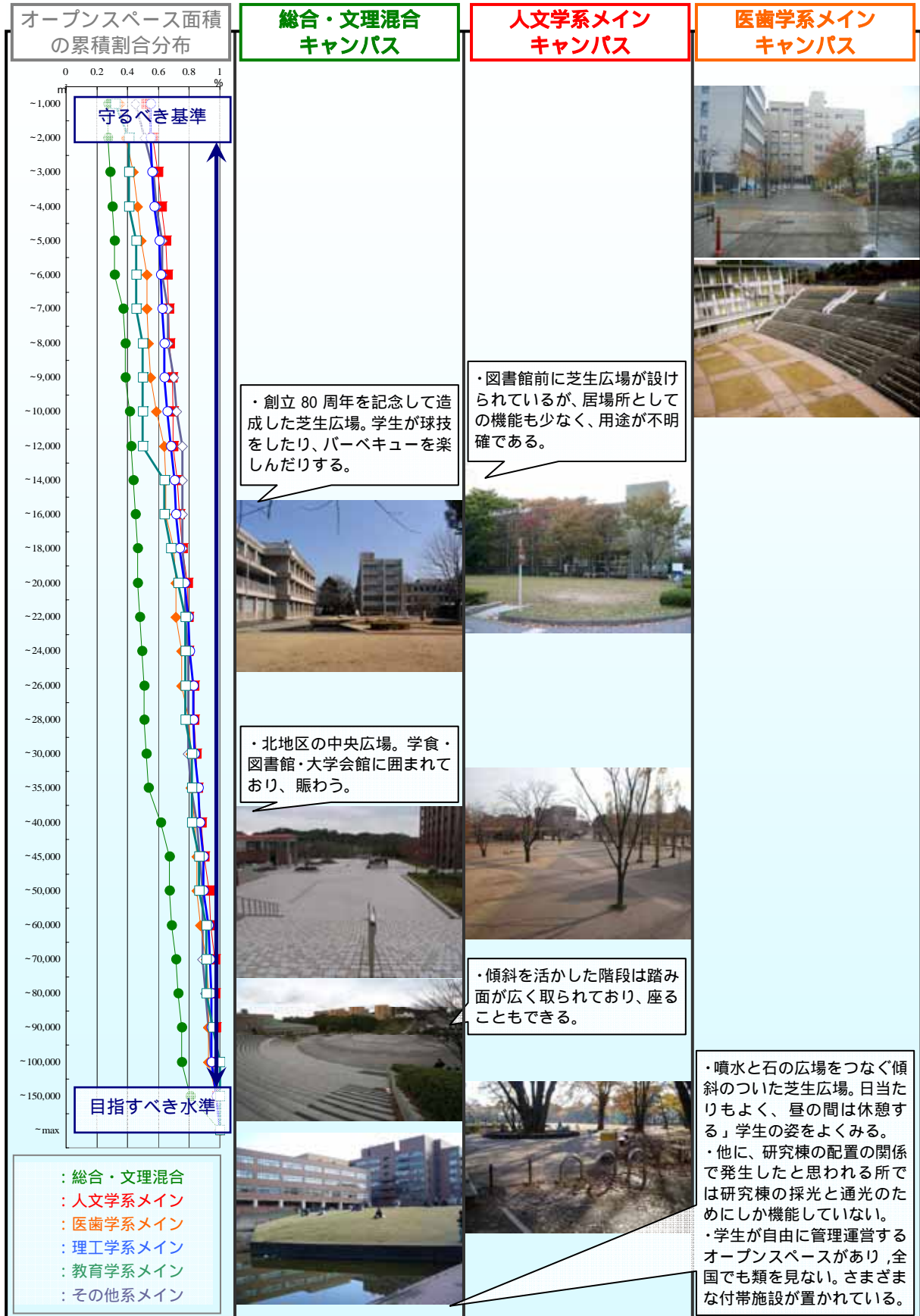
・工芸アトリエの屋外作業スペース。屋外での作業場所を確保するとともに、アトリエ棟を細分し、採光面積を増やしている。逆に冬期は除雪の必要がある
・主要な建物は、2階レベルで全て接続されている。
・大きめの風除室によって冬期の寒さに対応している。

その他系メイン
キャンパス

・図書館や学生会館の周囲は池に面していて、開放的で心地よく、ここを抜けて本館に来る学生や教員は多い。



・各種体育施設にも幹線道路側にサービス用位置口が確保されている。建物機能と配置、屋外空間、道路計画は一体のものとなっている。



**総合・文理混合
キャンパス**

・創立 80 周年を記念して造成した芝生広場。学生が球技をしたり、バーベキューを楽しんだりする。



・北地区の中央広場。学食・図書館・学生会館に囲まれており、賑わう。



**人文学系メイン
キャンパス**

・図書館前に芝生広場が設けられているが、居場所としての機能も少なく、用途が不明確である。



・傾斜を活かした階段は踏み面が広く取られており、座ることもできる。



**医歯学系メイン
キャンパス**



・噴水と石の広場をつなぐ傾斜のついた芝生広場。日当たりもよく、昼の間は休憩する学生の姿をよくみる。
 ・他に、研究棟の配置の関係で発生したと思われる所では研究棟の採光と透光のためにしか機能していない。
 ・学生が自由に管理運営するオープンスペースがあり、全国でも類を見ない。さまざまな付帯施設が置かれている。

理工学系メイン
キャンパス

・ある程度の大きさがあると居場所となりやすくなっている。
・他に、建物、擁壁に囲まれ所は、こじんまりとして居場所として使いやすい。



・デッキスペースでは、風除け・日よけ・雨よけや、床面劣化等の屋外空間に関する居住性確保が重要となる。



・歩行者用の通路が広がって出来たオープンスペース。
・未整備地が各所にあり、新築用敷地が担保されている。
・花壇や樹木、(恐らく)廃材を利用した木製デッキ等によってオープンスペースに変化を与えることで、屋外の居住性が高まっている。



・休憩リフレッシュ用のオープンスペースと考えられる。
・芝の管理がされており、快適性・屋外空間の居住性が確保されている。
・他に建物間に設けられたオープンスペースは緑地の確保、隣棟間隔の確保のためと考えられる。

教育学系メイン
キャンパス

・敷地北側の大規模な空地は冬期の除雪した雪を溜めておく場所となっている。
・広場は三方を建物に囲まれ、残る一方は2階レベルの連絡通路によって囲まれている。冬期は南側の講義棟の影で中央部分まで暗くなる。



その他系メイン
キャンパス

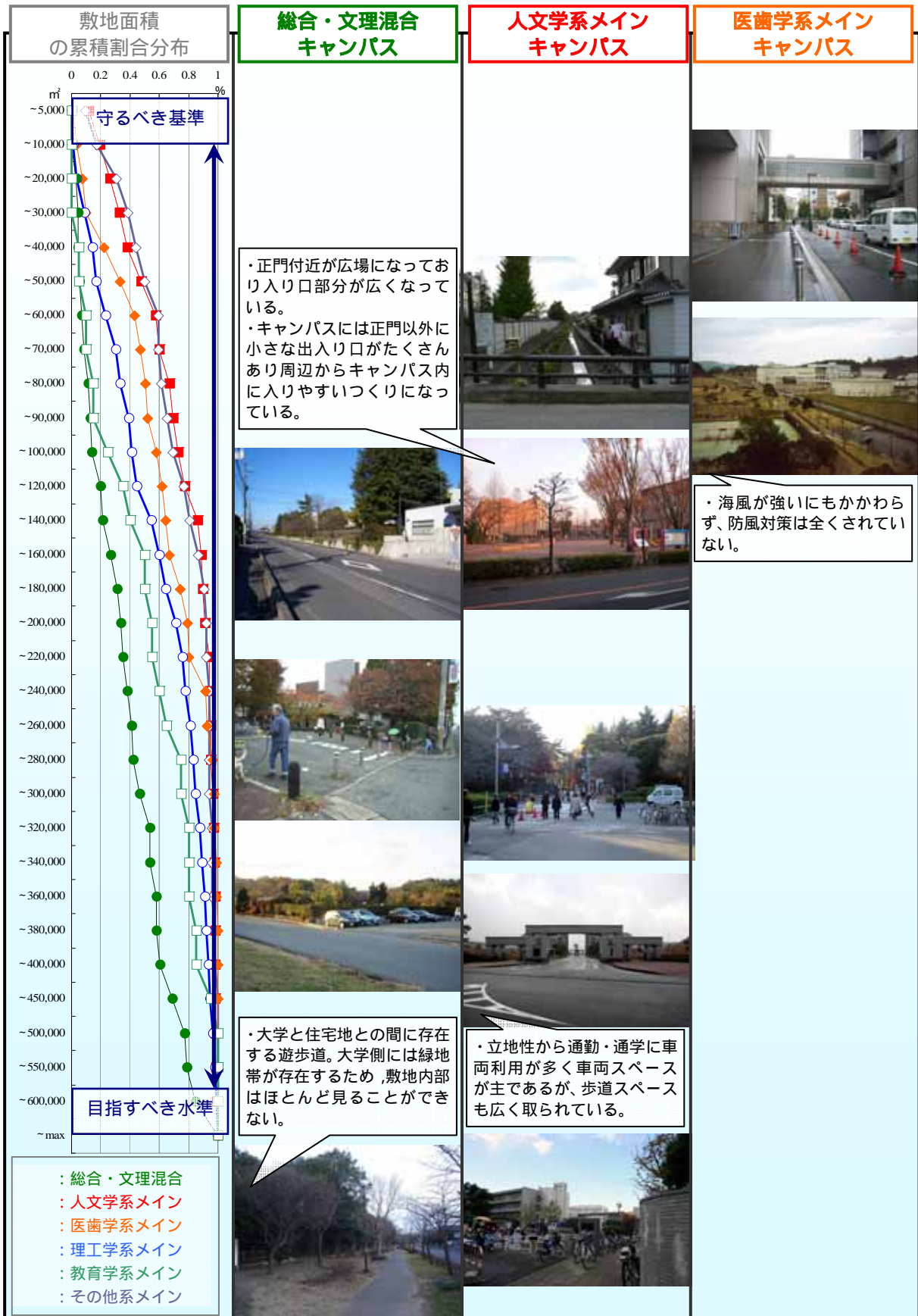
・本館正面広場は広いが、イベント時以外はあまり利用されていない。
・一方で、実習棟と研究棟の間の広場は、ヒューマンスケールの適度な規模のため、様々な用途に活用される。



・一般棟と本部棟に囲まれた中庭は教室からの出入りもしやすく学生の利用が多い。



⇒
・経年的に計画された屋外空間の確保
・風土、気候に適合した建物配置計画



理工学系メイン
キャンパス

教育学系メイン
キャンパス

その他系メイン
キャンパス



・風土、気候に適した敷地境界計画
・キャンパス内への適切な誘導方法

・目立った門等はなく、敷地境界の区分は弱い。
・敷地境界面では、学校敷地内には高木が、歩道内には低木が植樹され、2層の境界要素が組み込まれている。歩道幅員は広い。

・大学の入口。車両と歩行が区別されている。
・入口前の一時滞留場所は広く、空間的に余裕がある。



・人文系エリアのキャンパス入口の車両スペース。周回可能なスペースが取られ、見通しも良く安全である。
・通行方向に向けて球体の車止めがあるが、歩行者用スペースが狭く、床面も同一のため、歩車分離と成り難い。



・入口では、車両はゲートによって規制されている



・建物入口付近には駐車場が設けられている。立地、建物内部のプログラムによって入口の考え方そのものが多様性増している。



・車の利用者は、特に境界無く自由に入り込める。
・本館正面の階段には塀がないため、近所の幼稚園児などが散歩して構内に入ってくる。



・校地外周の街路樹。街路樹は防風林の役目をする。
・場所によって街路樹の密度が異なる。



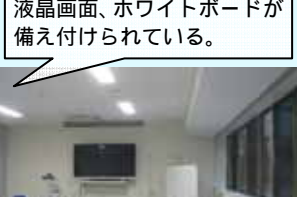


総合・文理混合
キャンパス



・スクリーンが 2 つと各種 AV 機器が充実しプレゼンルームとして利用されている。

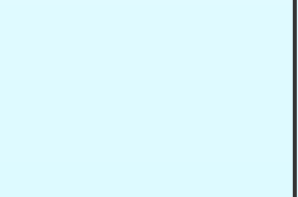
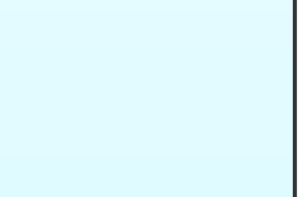
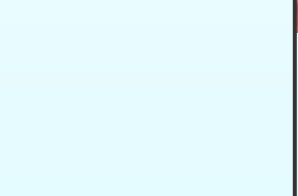
・50人講義室の様子。大型液晶画面、ホワイトボードが備え付けられている。



人文学系メイン
キャンパス



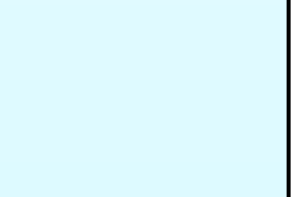
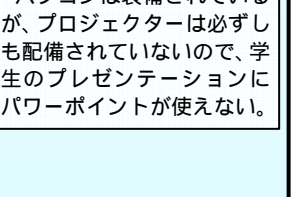
・63人収容の講義室。機器類も装備されている。
・椅子席は3人掛け、可動椅子となっている。



医歯学系メイン
キャンパス



・小講義室。80人以下の講義室6つは20人前後のゼミ室として使われるが、講義対応の机配置であるために使いづらい。
・パソコンは装備されているが、プロジェクターは必ずしも配備されていないので、学生のプレゼンテーションにパワーポイントが使えない。



理工学系メイン
キャンパス

・机が配置されているが、その間隔は通行するには狭い。OHPのためのスクリーンが設置されている。



・机・椅子は固定式。室の大きさに対する収容人数は最大まで多く、かなり狭い。
・収容人数の想定(大学運営)と計画・設計の適合が重要。



教育学系メイン
キャンパス



・黒板、AV 設備等が備わっている。授業後の机が整理されておらず、乱雑なままである。

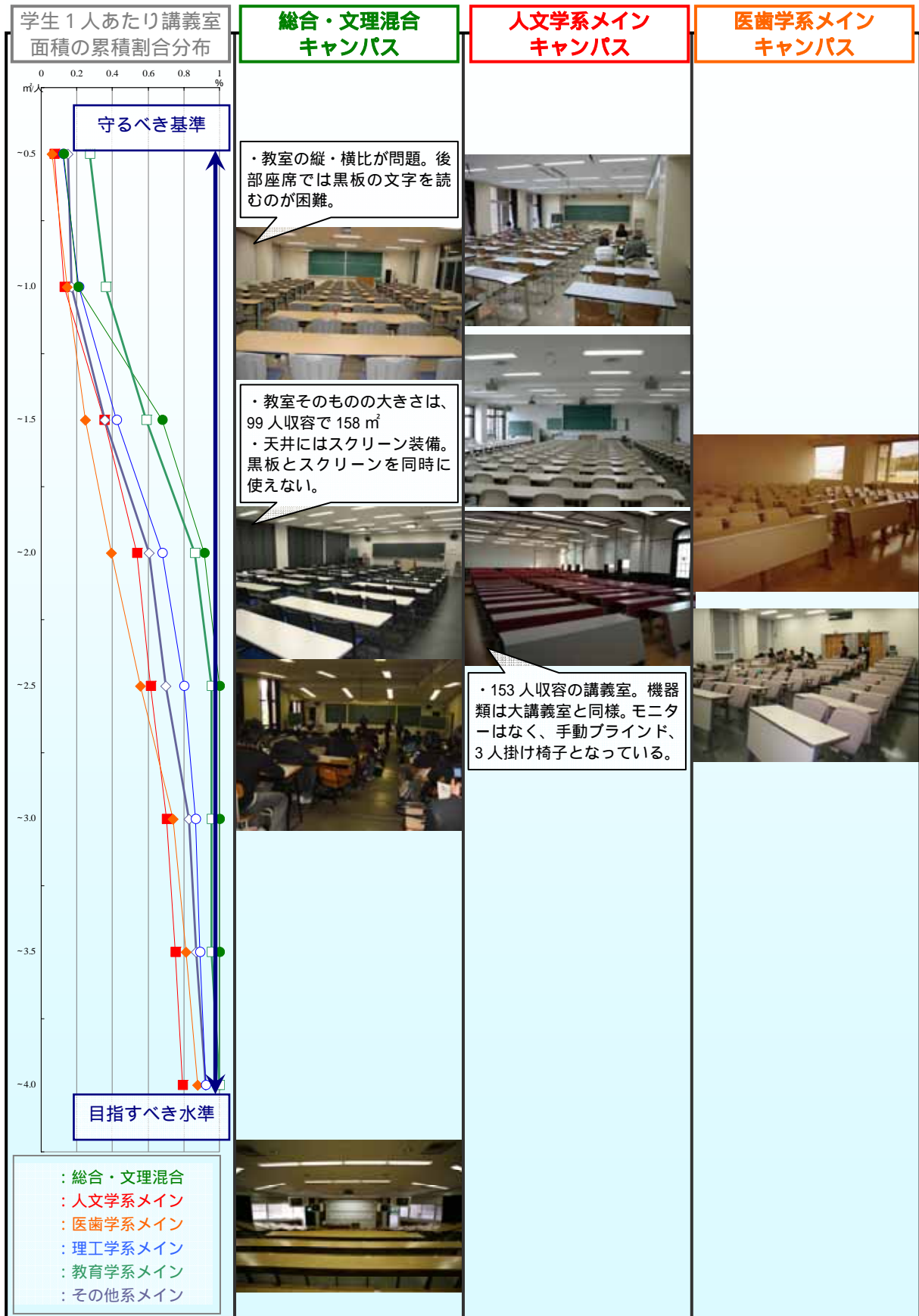


その他系メイン
キャンパス



・机・椅子は可動式になっており実習・実演に対応する。
・通常規格、机間の幅になっている。大学に通う学生の特性に併せた教室運用が必要である。

⇒ 小・中・大、の講義室の規模による利用方法の特性を踏まえた、教室とそこに連絡する通路、広場、休憩スペースの計画。
教室の形状や規模によって生じる、教室内の場所による授業環境の不公平さを設備等によって低減。
授業形態のペーパーレス、オンライン化への対応



理工学系メイン
キャンパス

・室形状が細長く天井が高い。授業運営の中で防音、空調、視線などの検討が必要となる。



・窓が右側にあるため手暗がりになる。

教育学系メイン
キャンパス



・スクリーン・スピーカーは設置されているがプロジェクターは使う毎に教務課で借りようになっている。



・中教室(140名) 縦長の教室で階段状になってはいるが、後方の学生からは教壇を遠く感じる。AVシステムがそれを補っている。出入口は前後合わせて4ヶ所。



その他系メイン
キャンパス

・100名収容の中講義室。中間にプラズマディスプレイが備えてあり、機器を使ったプレゼンテーションがしやすい。

